郡山東高校　修学旅行通信　その４　　2022 年 9 月 16 日　発行

はんなり

～仏様のファッションとポーズ～

今回は、仏様のファッション（持物）とポーズ（印相）についてご紹介します。あなたも、仏様のファッションとポーズを真似して、悟りの境地に入ってみてはいかがでしょうか（あれ？勉強にとって逆効果？）。

持物（じぶつ・じもつ）

仏像を思い浮かべてみると、なんだか有り難そうな道具を持っていることがありませんか？ そうした道具の１つ１つは実は大きな力を備えていて、仏様が民を救う際の助けにもなっているのです。薬師如来が、万病を癒す薬の壺を手にしているように、その持物が仏像の種類と結びついています。何を持っているのかが分かれば、それがどんな種類の仏像であるのかが判断できるのです。蓮の花や宝珠のように、民を救うための持物もありますが、武器のような形で、悪いものを排除したり断ったりする持物もあります。弓矢や斧、先端の尖った戟（げき）。ちょっと怖い感じがしますよね。でもこれらは、だれかを攻撃するものではなく、煩悩や迷いをやっつけてくれる法具なのです。仏様は、祈りに手を合わせる人の迷いや苦しみをバッサリと法具で断ち切ってくれるのです。



印相（いんそう・いんぞう）

印相は、お釈迦様をはじめとする仏様たちがとるポーズとされていて、ひとつひとつに意味があります。特に真言宗では、仏様にならって印を組む修行が盛んに行われています。印を結ぶそもそも理由なんですが、仏教の考え方のなかには「身口意の三業（しん・く・いのさんごう）」というものがあるんです。「身」は、身体でする行為。「口」は、口から出てくる言葉。「意」は意識、つまり心。密教では、この三業それぞれに秘密の教えがあるということで、「身密」「口密」「意密」と言い、それをまとめて「三密」と呼んでいます。この中の「身密」にあたるのが印相で、印を結ぶ、つまり仏様と同じポーズをとる。いわば形から入るわけですね。仏様のポーズである印を結び（身密）、仏様にまつわる言葉「真言」を唱え（口密）、そして心にご本尊を念ずる（意密）。この三密を揃えれば、仏様と同じ境地に至る、もしくは仏様と一体化できるというのが、真言宗での修行だそうです。最近、「三密を避けましょう」って言ってますけど、真言宗さんとしては「避けないでくれよ」って思ってるんじゃないですかねえ。

裏面の印相を理解して、仏様の深～い深～いお慈悲を理解しましょう。

参考：https://dailyportalz.jp/kiji/photogenic-Inso



来迎印は、阿弥陀如来が死者をお迎えに来たときのポーズで、決してお金を要求しているわけではありません。
禅定印は、アニメの一休さん（臨済宗のお坊さん）がとんちを考えるときのポーズですね。



施無畏印と与願印はセットと使われることが多く、「大丈夫だよ」（私が）「お話を聞いてあげるよ」といった慈悲に溢れたポーズであって、これも、決してお金を要求しているわけではありません。



智拳印は、アニメや漫画に登場する忍者のポーズと似ていますが、右手人差し指がやや異なります。
説法印は、「説法中なのでお話を良く聞いて下さい」との意。先生方も授業中にこのポーズを取り入れてみては？



降魔印は、「悪魔はあっちに行け」。思惟印は、「今、考え中です」。この印の代表格とされるのが、56 億 7000 年にもわたって人々の救済方法を考え続けている弥勒菩薩像のポーズです。

あなたは、どのポーズがお気に入りですか。記念写真の時にみんなでやってみてはいかが？